

KARUハーネスDX 取扱説明書

種類：フルハーネス型
使用可能質量：130kg

要保存

厚生労働省「墜落制止用器具の規格」適合品

- この度は当社製フルハーネスをお買い上げ頂き、お礼申し上げます。この製品を使用する前にこの取扱説明書を最後まで読んで頂き、充分ご理解の上使用してください。
【この取扱説明書は読んだあと大切に保管してください。】
- この製品は労働安全衛生法第42条の規定に基づく「墜落制止用器具の規格」に合わせて製造したものです。
- 厚生労働省基発0622第2号（平成30年6月22日）「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に従い適切に、安全に使用してください。
- 疑問や不明な点がございましたら、裏面の当社消費者相談室にご連絡ください。
- この取扱説明書を紛失した場合も同室までご請求ください。

※特別教育について

高さ2m以上の箇所において、作業床を設けることが困難な場合で、フルハーネス型墜落制止用器具を使用して作業を行う労働者は特別教育(学科4.5時間、実技1.5時間)を受講しなければなりません。事業者はフルハーネス型を使用する作業者に所定の特別教育を受講させてください。

墜落制止用器具の種類

「フルハーネス型」と「胴ベルト型」

墜落制止用器具は「フルハーネス型」の使用が原則となります。6.75mを超える場所での作業は「フルハーネス型」に限定。
ただし、「フルハーネス型」の着用者が地面に到達する恐れがある場合(高さ6.75m以下)は「胴ベルト型」の使用が可能です。

ショックアブソーバの種類

ショックアブソーバとは墜落を制止するときに生じる衝撃を緩和する為の器具で、ランヤードに備わっています。

「第一種ショックアブソーバ」と「第二種ショックアブソーバ」

- ・「第一種ショックアブソーバ」… 腰より高い位置にフックを掛ける場合に使用する。自由落下距離1.8mで墜落を制止した時の衝撃荷重4.0kN 以下
- ・「第二種ショックアブソーバ」… 足元にフックを掛ける場合に使用する。自由落下距離4.0mで墜落を制止した時の衝撃荷重6.0kN以下

フルハーネスとランヤードは同一メーカーのものを組み合わせてご使用ください。異なるメーカーの製品を組み合わせると十分な性能が得られない場合があります。

墜落制止用器具の選定について

適切な墜落制止用器具の選定には、フルハーネス型又は胴ベルト型の選択のほか、フック等の取付設備の高さに応じたショックアブソーバのタイプ、それに伴うランヤードの仕様(ロック装置付き巻取式)などの選択があります。
ご使用前にフルハーネス又はショックアブソーバに記載の墜落制止用器具の種類・ショックアブソーバの種別・使用可能質量・自由落下距離・落下距離を確認し作業に合った適切な墜落制止用器具であることを確認してください。
また、墜落制止用器具を装着する前にこの取扱説明書を確認し、安全上必要な部品が揃っているか確認してください。

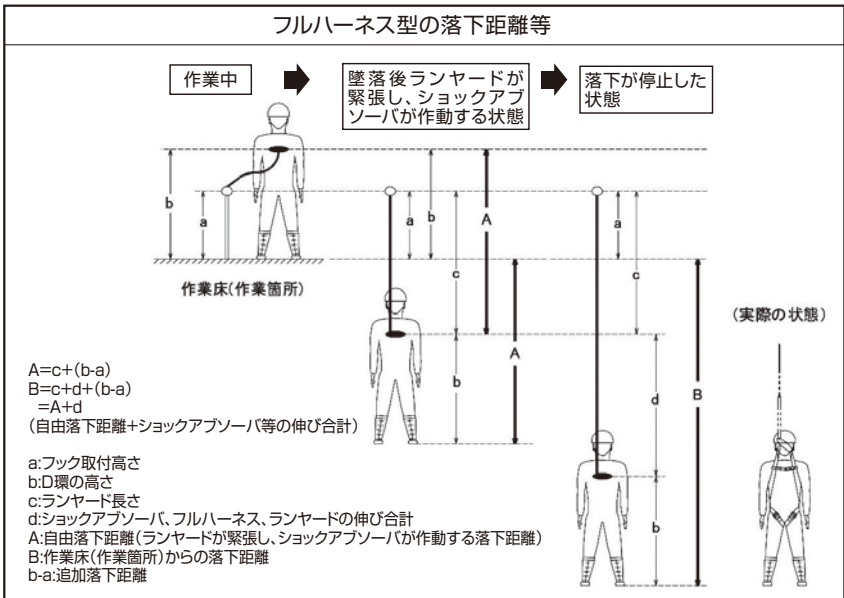
自由落下距離・落下距離について

◆自由落下距離

自由落下距離とは作業者がフルハーネスを着用する場合において、フルハーネスにランヤードを接続する部分の高さからフックの取付設備等の高さを減じたものにランヤードの長さを加えたものを言う。(図のA)

◆落下距離

落下距離とは作業者の墜落を制止するときに生じるランヤードの伸び、フルハーネスの伸び等に自由落下距離を加えたもの。(図のB)
また、フックをかける取付設備と、ランヤードを接続する環との高さの差を追加落下距離という。



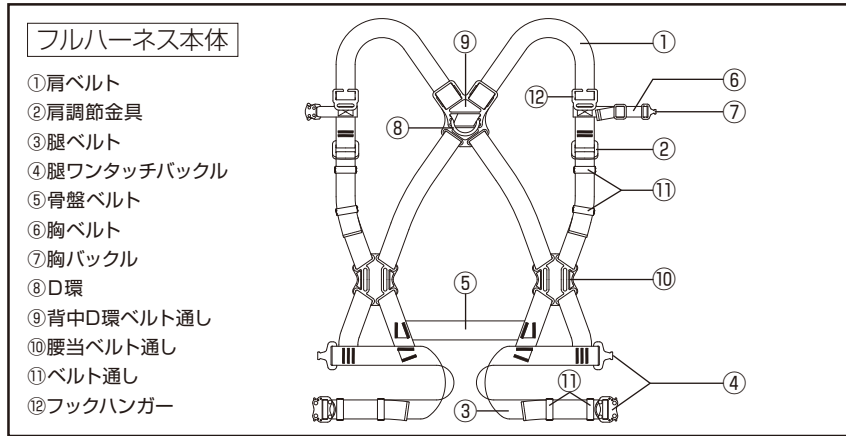
ベルトの通し方と装着方法

各ベルトの通し方を間違えますとバックルの機能を失いますので、充分注意してください。

フルハーネスの装着方法

(1) 肩ベルトに腕を通して装着する。ベルトがねじれていないかを確認する。	(2) 胸ベルトを装着する。	(3) 太ももに腿ベルトを通し、腿ワンタッチバックルを装着する。
(4) 肩ベルトの長さを調節する。	(5) 腿ベルトの長さを調節する。	(6) 胸ベルトの長さを調節する。各ベルトが緩みなく、確実に装着されているか確認する。

◆フルハーネス 各部名称 (形状は一例を示します。)



●胸ワンタッチバックルの装着方法

(1) 付け方	(2) 外し方	(1) 本体を保持し、差し込みプレートを「カチッ」と音がるまで差し込む。 (2) 両側の解除レバーを同時に押し、差し込みプレートが外れる。
---------	---------	--

●腿ワンタッチバックルの装着方法

(1) 差し込み具をバックル本体奥まで差し込んでください。	(2) 差し込み具が確実にロックしていることを音及び目視にて確認し、更にベルトを左右に引っ張り、ロックの確認をしてください。	(1) バックル本体側の両端ロック解放レバーに押し込む。	(2) 本体側の両端ロック解放レバーを押し込んだ状態で差し込み具を抜いてください。
-------------------------------	--	------------------------------	---

危険

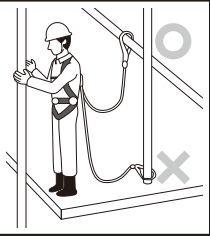
誤った使い方をしますとフルハーネスが損傷したり落下事故の恐れがあり大変危険です。絶対に下記の項目を守って使用してください。

1. 墜落制止用器具の取付設備は、フックが外れたり、抜けたりする恐れのないもので、墜落制止時の衝撃力に対し充分耐え得る堅固なものであること。	2. ローブ・ストラップをアングル等の鋭い角に回し掛けするとローブ・ストラップが破断する場合があります。やむをえない場合は当て布等で保護してください。	3. 斜めの構造物や逆し字形的ように墜落時にフックがずれる箇所には掛けないでください。	4. フルハーネスやランヤードを分解又は改造等は絶対にしないでください。
--	---	---	--------------------------------------

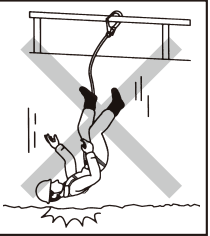
警告

誤った使い方をしますとフルハーネスが損傷したり落下事故の恐れがあります。
絶対に下記の項目を守って使用してください。

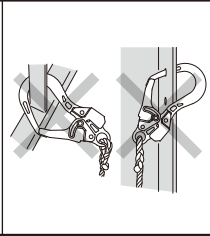
1.フックを取付ける位置は腰よりもできるだけ高い位置に取付けてください。
(タイプ1)



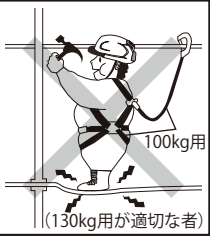
2.ランヤードに表示された落下距離を確認し、それ以下の位置で作業を行わない。墜落阻止時に床面又は下方の障害物に接触する恐れがあります。



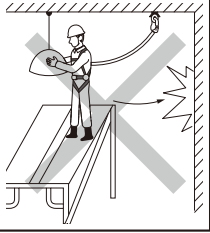
3.フックは正しく掛けてください。誤った掛け方をしますと墜落阻止時に構造物から外れる危険性があります。



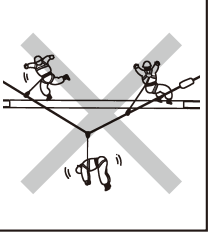
4.フルハーネス・ランヤードには使用可能な最大質量が定められているのでフルハーネス・ランヤードを使用する者の体重と装備品の合計の質量が使用可能な最大質量を超えないようにしてください。



5.フックの取付ける位置は可能な限り使用者に近い位置に取付けてください。墜落制止時に振り子状態になり構造物に衝突する恐れがあります。



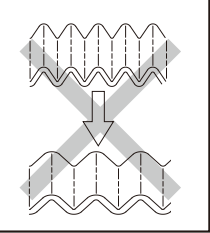
6.水平親綱を使用する作業者は原則として1スパンに1人としてください。



7.ロープ・ストラップ・ベルト・ショックアブソーバに溶接の火花、酸、溶剤、高熱の物質及び化学薬品類が触れないようにしてください。



8.ロープ・伸縮ストラップのベルト表面が硬化し、柔軟性が低下したものは、強度低下している場合があります。



9. このフルハーネスは墜落時の災害を防止するものです。それ以外の用途には絶対に使用しないでください。(車の牽引・重量物のつり上げ等)

10. 墜落制止時にフルハーネスがずり上がり、安全な姿勢が保持できなくなることはないように、緩みなく確実に装着してください。

11. バックルは正しく使用し、ベルトの端はベルト通しに確実に通すこと。

12. 一度でも大きな衝撃を受けたフルハーネスは、外観に変化がなくても再度使用しないでください。

13. ロープ・ストラップ・ベルト・ショックアブソーバは高温に弱い性質がありますので、50℃以上の環境では使用しないでください。

14. 製造元以外でストラップ・ベルト・ショックアブソーバの縫製やロープのさつま加工は絶対にしないでください。

15. ショックアブソーバのカバーが破損したものは使用しないでください。

注意

安全にお使いいただくためにお守りください。

1. このフルハーネスは1本つり専用です。U字つり作業には使用しないでください。

2. フルハーネスやランヤードを投げたり、引きずったりしないでください。故障の原因になります。

3. フルハーネス装着後ランヤードを背中への環に繋げるときは別のの人に確実に取付けてもらう。

4. ロープ・ストラップが雨等で濡れると電気をよく通します。感電には充分注意してください。

5. バックル本体内部が凍結により作業に影響する恐れがある場合は使用しないでください。

6. バックル本体内部に異物が混入すると差し込み具が挿入できなくなります。バックル本体内部には差し込み具以外のものを差し込んだり異物が混入しないようにしてください。
◎バックルを確実に挿入し、外れないか確認してからご使用ください。

7. フルハーネスとランヤードの組み合わせは、同一メーカーのものを組み合わせてご使用ください。

■保守・保管

1. ロープ・ストラップ・ベルト・ショックアブソーバは日光、熱、雨、薬品等の影響を受けますと性能の低下や伸縮する場合がありますので前記の影響のない場所に保管してください。
尚、ストラップは必ず収納して保管してください。

2. 雨等でフックやバックル部が濡れた場合は乾いた布等で拭き取ってください。

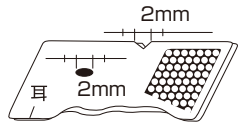
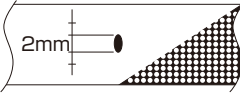
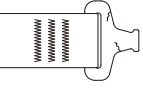
3. バックル・フックの可動部分・スプリング等に砂や土が付着すると機能が低下し錆付きの原因になりますので、時々手入れをし注油してください。

4. ロープ・ストラップ・ベルト・ショックアブソーバが濡れたり汚れた場合は、ぬるま湯で洗い陰干しをしてください。ただし、50℃以上になる場所や熱風等での乾燥は絶対にしないでください。

5. 製品の上に角張ったものや、重いものは置かないでください。

■点検・廃棄

フルハーネスは使用前及び定期的に点検して頂き、下記の廃棄基準に達すれば新しいものと取替えてください。

点検部分	点検項目・廃棄基準	
ベルト	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶解	
	両耳	幅の中
		
	2mm以上の摩耗・切り傷等があるもの	
金具類 バックル D環	変形	傷・亀裂
		
	a. 変形しているもの b. 1mm以上の傷・亀裂のあるもの。 c. リベットが損傷したり緩んでいるもの。 d. 作動が悪いもの。完全に開閉しないもの。 e. バネが折損・脱落しているもの。 f. 全体に錆又は著しい腐食が発生しているもの。 g. バックルの装着又は解除ができないもの。	

◆交換のめやす(耐用期間)

使い方によって異なりますが、交換の目安としてはランヤードで使用開始より2年、ランヤード以外のものについては3年ぐらを目途にしてください。屋外で使用する機会が多い場合は前記期間より短くしてください。(紫外線等により劣化します。)
ただし、耐用期間内であっても点検項目にしたがって点検を実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで新品と取替えてください。使用を開始した年月を必ずご記入ください。
また、ベルト・ランヤード等商品を取替えた時はその取替え年月も必ずご記入ください。

(背中に取付けているラベル)

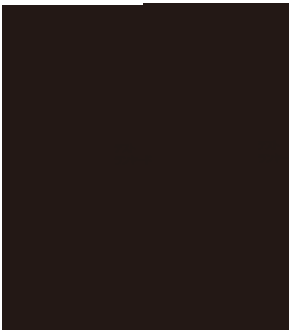
使用開始年月

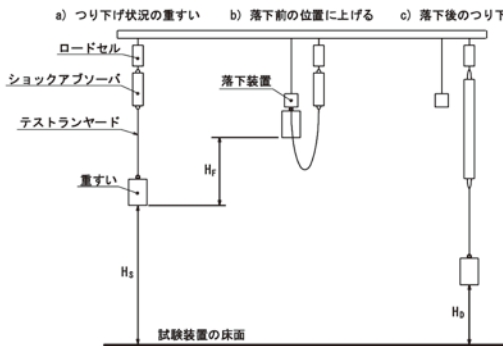
使用・取替えなどの開始年月を必ずご記入ください。

開始年月	
取替年月	
氏名	

■厚生労働省「墜落制止用器具の規格」(タイプ1)

性能	規格値	
フルハーネスの強さ	順方向	15.0kN以上
	逆方向	10.0kN以上
胴ベルトの強さ	15.0kN以上	
ロープなどの強さ	15.0kN以上	
フックの強さ	11.5kN以上	
ショックアブソーバの強さ	15.0kN以上	
巻取器の強さ	11.5kN以上	
巻取器ロック装置の強さ	6.0kN以上	
フルハーネスの耐衝撃性及び関連性能	脚部から先に、及び頭部から先にそれぞれ落下させたとき、トルソーを保持する事。	
ショックアブソーバの耐衝撃性及び関連性能	衝撃荷重	4.0kN以下
	ショックアブソーバの伸び	1.2m以下

フルハーネスの耐衝撃性及び関連性能	
	
脚部から先	頭部から先

ショックアブソーバの耐衝撃性及び関連性能	
	

挑み支度

TOYO SAFETY.

www.toyo-safety.co.jp

日本安全帯研究会会員

株式会社トーヨーセーフティ

〒673-0443 兵庫県三木市別所町巴21-1

消費者相談室：0794-83-0155

BEE-Ⓐ